

# 所沢図書館ラーニング・コモンズ開設

## 1 はじめに

2017年4月1日、所沢キャンパスに初めてのラーニング・コモンズ(LC)が誕生した。LCは、一般的には学生による自学自習を支援するために用意された環境やスペースを示すが、具体的にはグループによるディスカッションやプレゼンテーションが可能な場であり、ICTを十分に使える環境と各種の学習支援コンテンツを備えた場でもある。既に本学には、本部キャンパス内7号館の「W Space」などのLCが存在しているが、この度所沢キャンパス内にもLCが開設される運びとなった。場所はキャンパス中心部に建つ100号館4階・所沢図書館内の一区画を充当した。

## 2 設置までの経緯

所沢図書館には開館当初より「開放閲覧室」という学生による自学自習を目的とした小区画が存在していた。2012年10月にはグループワークや講習会へも対応できるように、可動式の机椅子への変更・固定PCや情報コンセントの廃止・電源供給方式の変更・ホワイトボードを設置する等、什器の更新を実施した(注1)。

その後2014年9月に深澤図書館長が着任し、本学のWaseda Vision150核心戦略NO.4「対話型・問題発見課題解決型教育への移行」に対し図書館がどのように寄与すべきか、という観点から「新しい図書館」のあるべき姿としてLCを各図書館・図書室へ設置する構想が提示された。この下に、先ず所沢図書館へのLC設置を進めることとなった。

## 3 LCのコンセプト

計画にあたり所沢キャンパスにLCを設置するとはどういうことか、目的を問うことから始めた。改めて所沢図書館のミッションは何かというと、早稲田大学や人間科学学術院・スポーツ科学学術院のディプロマポリシーに則った学士力を持つ学生を輩出することがひとつある。具体的には問題解決力・自律性・論理的筆致力を持つ人材の涵養や、国際社会におけるリーダーとなりえるグローバル人材の造就を目標とする。そこで上記ミッションを実現するため、所沢図書館LCのビジョンとして以下を考えた。

1. LCは、所沢キャンパス内で最もグローバルな学内エリアとする。
2. LCは、学生が課題発見／問題解決力を涵養するためPBL (problem based learning) が可能な学内エリアとする。
3. LCは、学生が所沢キャンパス内で長時間居たくなる

学内エリア(=滞在型図書館)を目指す。

上記のためLCが持つべき要素として以下がある。

### ■ 様々な形の対話型教育が可能な空間

具体的には「学生によるグループディスカッションが可能な空間」、「ゼミの予習復習や発表の準備ができる空間」、「プレゼンテーションの練習が可能な空間」、「邦人学生が留学生と外国語でディスカッションする空間」などである。

### ■ リテラシー／リベラルアーツ／グローバルマインド 社会人基礎力を深めるコンテンツ

この空間では、本学のワークショップやイベントといったコンテンツを提供する。例えば、「数学基礎プラス」「統計リテラシー」「論文作成支援」「ビブリオバトル」「自校史展示」「地域自然環境展示」「データベース講習会」「サイエンスカフェ」「健康プラザ」「スポーツ関連壮行会」「ライブラリーコンサート」「上映」「パフォーマンス」「スポーツ大会の資料展示(用具・トロフィー・メダル・賞状・ユニフォーム・大会旗・トーチ・記念硬貨・ポスター・大会マスコット等)」「留学生と日本人学生との交流イベント」など。

### ■ 「学習の合間の憩い」の要素

外気を吸える中庭、仲間と会話できるエリア、飲食可能なゾーンも設置したい。

上記の各要素を叶えるために、以下の基盤インフラの設置を検討した。

空間のゾーニング(遮音壁を設置し一般閲覧エリアと区切る)、ガラス張りの空間、吸音性の高い床、バリアフリー、良質なデザインの可動型机椅子、占有面積が広いソファ型座卓、展示専用の什器、デジタルサイネージ、多種多量の電源、全面ホワイトボード、無線LAN環境、ポータブルプロジェクター。

## 4 各エリア概要

### ■ サポートエリア

入館ゲートを通り、貸出・返却カウンター前を経て最初に着く空間にサポートエリアを設置した。ここでは自



サポートエリア内のブース

学自習支援のため次のサービスコンテンツを展開する。

1. ラーニングアシスタント(LA)による学習相談。
2. ライティング・センターによる論文作成支援。
3. グローバルエデュケーションセンターによる数学基礎プラスシリーズの対面相談。
4. キャリアセンターによる就職活動対面相談。

エリア内にはブース状の囲い空間があり、上記の内いくつかの対面サービスをブース内で実施予定である。一方、学生がディスカッション中にメモしたノート等をグループの人数分複写できるよう、エリア内にコピーやプリントアウトが可能な複合機を設置している。

### ■ プレゼンテーションエリア

ゼミの発表やプレゼンテーションの予行演習などに利用できるような部屋を設置した。正面側は自動ドア付の一面ガラス張りとし、側面は全面ホワイボードの壁面とした。この部屋にはプロジェクターを常設し、また可動式の椅子と机を配置し、特にプレゼンテーションを必要とするゼミ発表・講演会等の催し物も開催できるよう想定し計画した。利用にあたり事前の予約も可能としている。



プレゼンテーションエリアの様子

### ■ グループ学習エリア1

プレゼンテーションエリアとは異なり閉塞された空間とはしないが、全面ホワイボード壁面や可動式の椅子・机は同じように配置している。

### ■ オープンエリア

グループ学習エリア1へと連綿と繋がる空間である。少人数でのグループ学習に適した空間を想定しており、



オープンエリアの様子

そのため可動式の3人掛けテーブルと椅子に加えて、ボックスタイプの4～6人掛け座席も設置している。このボックスタイプ席にはディスプレイが置かれ、利用者の持ち込んだPCやタブレット端末を接続すれば情報をディスプレイ上に映せるようにしている。

### ■ グループ学習エリア2

こちらもプレゼンテーションエリアと同様に自動ドア付のガラス張りの部屋とし、可動式の机椅子を配置してグループ学習に適するような空間とした。ただし常設のプロジェクターは設置せず、利用者が必要ならばポータブルのプロジェクターを借用できるようにした。

### ■ リラックスエリア

利用者にとり長時間滞在型の図書館となるべく、グループ学習でディスカッションに疲れた時やテスト勉強中に少しだけ頭を休めたい時など、ほっとひと息つける場所として設置した。

### ■ 個人学習エリア

個人での図書閲覧や自学自習は従来空間でも可能であったが、この空間ではさらに備え付けPCを用いた学習やAV資料を視聴できるように各種機器を設置した。

### ■ オープンエアコモンズ(中庭回廊エリア)

屋内のみでは長時間の滞在は苦しいであろう。外気に触れて身体を動かし、木々のマイナスイオンを吸収しながら学友同士で談笑できるようにテーブルとベンチを配置した。また回廊は屋内と段差があるため、階段と自動昇降機を設置した。

## 5 まとめと今後

2020年度より改正予定の新学習指導要領では初等中等教育でのアクティブ・ラーニングの採用が盛り込まれる(注2)。このことは即ち、小・中・高でアクティブ・ラーニングや対話型学習を経験して入学する学生に対し、LCは大学にとってむしろ設置必須の空間ともいえるのではないだろうか。所沢キャンパスで初となるLCが今後どのように活用されていくか、開設後最初の一年は試行錯誤となるが最終的にはエビデンスデータを計測し評価したい。例えばLC開設前後での入館者数・貸出冊数の比較や利用者アンケートを用いて、自律する力・課題発見問題解決力・多面的なものの見方・国際社会への対応力・リーダーシップが身についたか調査ができればと考えている。それらの評価から課題を抽出し、次年度以降のさらなる改善計画に繋げていきたい。

#### 【引用文献】

(注1) 渡邊幸弘, “開放閲覧室(所沢図書館)新装オープン”『ふみくら』no.83, (2013.2), p.10. <http://hdl.handle.net/2065/47680>

(注2) 文部科学省中央教育審議会 教育課程部会 “今後の学習指導要領改訂スケジュール”

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/\\_icsFiles/afieldfile/2016/08/29/1376580\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/29/1376580_3.pdf)